

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●手足口病は、引続き警報レベルを超えています。

先週より少し減少しましたが、しっかり手を洗い、引き続き感染予防を心掛けましょう。

●RSウイルス感染症が昨年と同じペースで増えてきています。

RSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0～1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染すると言われています。

◆どんな病気？

- ・症状……鼻水、発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。
 多くは軽症ですみますが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間～数ヶ月間)に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。
- ・潜伏期間…2～8日程度(典型的には4～6日)
- ・感染経路…感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。
- ・流行期……例年冬季にピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、近年は7月頃から報告数の増加傾向が見られています。



◆かかったらどうすればいいの？

- ・特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。

◆予防法は？

- ・手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生に保ちましょう。子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールや塩素系の消毒剤などでこまめに消毒するようにしましょう。
- ・重症化のリスクの高い乳幼児には、医師の判断のもと、重症化を予防するためにパルビズマブ(シナジス)という薬を使用する場合があります。

期 間		平成29年 29週		平成29年 30週	
		7/17～7/23		7/24～7/30(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		4	0.16	1	0.04
RSウイルス感染症		3	0.19	12	0.75
咽頭結膜熱(プール熱)		15	0.94	14	0.88
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		27	1.69	18	1.13
感染性胃腸炎		55	3.44	58	3.63
水痘(みずぼうそう)		5	0.31	10	0.63
手足口病		163	10.19	154	9.63
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		7	0.44	12	0.75
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		61	3.81	83	5.19
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	6	0.38
急性出血性結膜炎		0	0.00	1	0.20
流行性角結膜炎(はやり目)		27	5.40	13	2.60
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	2	0.40
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	1	0.20